

2015年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

第1問 世界の自然環境と自然災害

問1 正解は⑥

アはC。「地殻変動がほとんど起きていない」ことから安定陸塊の説明である。「高原状の地形」から、デカン高原（インド）に結びつく。デカン高原に分布するレグール土は、玄武岩を母材とする黒色の間帯土壌である。

イはB。「古生代に地殻変動」「標高が低く起伏の小さな」から古期造山帯の説明である。ウラル山脈（ロシア）を指している。

ウはA。「現在も地殻変動」「急峻で起伏の大きな」から新期造山帯の説明である。環太平洋造山帯の一部であるアラスカ山脈（アメリカ合衆国）を指している。

大地形に関する標準的な理解と知識があれば、容易に判定が可能である。

問2 正解は④

Eの1月は④。判定は以下のように行う。

- 1) 北半球が冬となる1月には、気圧帯は全体的に南に移動する。そのため、降水量の多い熱帯収束帯（赤道低圧帯）は1月には 15° S（南緯15度）付近にあり、ここにグラフのピークがある②と④に絞られる。
- 2) 次に 20° N（北緯20度）付近をみると、Eでは年中乾燥するサハラ砂漠（Fでは南シナ海付近）にあたるため、降水量がほぼゼロになっている④を選ぶ。この乾燥は亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響である。

なお、Eの7月は③、Fの1月は②、Fの7月は①。上と同様に、熱帯収束帯の位置とサハラ砂漠に注意すれば判断できる。

大気の大循環や海陸分布、砂漠の分布などの理解に基づいて、丁寧にみていけば難しくくない。なお、2014年度の第1問問6でも同様のグラフを用いた出題があった。過去問の研究を怠ってはならないことを示している。

問3 正解は④

Kは④。判定は以下のように行う。

- 1) 最暖月と最寒月の平均気温の差（年較差）は、沿岸部の海洋性気候では小さく、内陸部の大陸性気候では大きい。K（およびJ）は沿岸にあるため、③と④に絞られる。
- 2) JとKを比べた場合、Jは沖合の寒流（カナリア海流）の強い影響を受けるため、最暖月の平均気温が低い。よってJは③と決まるため、Kは④と判定する。

Lは①。最も高緯度であり、最も海から遠いので、気温の年較差が極めて大きい。

Mは②。大陸の内部にあって、Lに次いで年較差が大きい。

②と④の違いがそれほど大きくないので、迷うかもしれない。やや難しい。

問4 正解は③

③ 誤り。R（ウクライナ付近）にはチェルノーゼムと呼ばれる黒土が分布する。半乾燥の草原地帯にあたり、厚い腐植層をもつ肥沃な土壤である。③文の内容は砂漠土を示す。

① 正しい。P（アメリカ合衆国東部）に分布する温帯土壤である褐色森林土の説明である。

② 正しい。Q（フィンランド付近）に分布する冷帯土壤であるポドゾルの説明である。

④ 正しい。S（コンゴ盆地付近）に分布する熱帯土壤であるラトソルの説明である。気候・植生の分布に対応する土壤の分布に関する基本的な理解を問う標準問題。

問5 正解は①

カは「侵食されにくい」。地点X（アメリカ合衆国西部のモニュメントヴァレー付近）には、メサやビュートなどの地形がみられる。メサはテーブル状の台地、ビュートはメサがさらに侵食された孤立丘をいう。侵食を受けやすい地層（軟層）は侵食されて下部で斜面となり、侵食されにくい地層（硬層）が上部に垂直に取り残されて形成された地形である。

キは「石灰岩の溶食」。地点Y（中国のコイリン〔桂林〕）には、カルスト地形の一種であるタワーカルストが林立する奇観がみられる。カルスト地形とは、石灰岩の地層が溶食（雨水に溶けて侵食されること）を受けて形成されたものである。

小地形の成因を理解した上で、分布地域の知識も必要となる。いずれの写真も教科書や資料集でもおなじみであり、日常的にこのような問題を意識して目を通しておこう。

問6 正解は⑥

サは熱帯低気圧。サイクロンが襲来するバングラデシュやインド、台風が襲来するフィリピン～日本、ハリケーンが襲来するカリブ海諸国やアメリカ合衆国などから判定する。

シは地震・津波。環太平洋造山帯やアルプス＝ヒマラヤ造山帯での発生が多いことから判定する。

スは火山噴火。シと同様に新期造山帯に集中するが、発生数が少ないことや、ヒマラヤ山脈付近での発生がない（大陸プレートどうしの衝突で生じたため、プレートが厚く、

地球内部からのマグマが地表まで届かない) ことなどから区別できる。

アメリカ合衆国などの面積が広い国について、図形表現 (円) が発生地点に描かれているわけではないことに注意すれば難しくない。しかし、最終的な判定で迷った受験生も多かったようである。

第2問 世界の農業

問1 正解は①

- ① 誤り。イタリアで農場の国有化を進めた事実はない。農場の国有化や共有化は、社会主義国にみられる政策である。なお、イタリアでは第二次世界大戦前の恐慌時に金融業や製造業への政府の統制を進め、戦後も民間部門と公共部門との混合経済体制をとっていた。しかし、1990年代以降に国有企業グループの解体と民営化が行われた。
- ② 正しい。インドでは「緑の革命」によって小麦や米の自給が可能になった。
- ③ 正しい。カナダは寒冷限界に近く、品種改良で寒さに適応した春小麦を栽培している。
- ④ 正しい。フランスはEU最大の農業国であり、小麦生産は世界第4位(2012年)、小麦輸出は第2位(2011年)である。

グラフの読み取りは判断に全く影響しない。誤文が明確なので易しい設問であるが、政治的背景を含んだ内容は受験生にとって苦手なようである。

問2 正解は⑤

アはパーム油。パーム油は油ヤシから採る油脂で、洗剤や食用油などの原料となる。東南アジアでの生産が多く、インドネシアやマレーシアの生産が多い。

イは茶。茶は中国原産の嗜好飲料である。中国のほか、インド・ケニア・スリランカなど旧イギリス領での生産が多い。主に多雨で水はけの良い土地で栽培されている。

ウは天然ゴム。天然ゴムはアマゾン原産の工業原料であるが、現在の主産地は東南アジアに移っている。

アとウの判定については、マレーシアに注目する。マレーシアは、かつてイギリスの植民地支配の下で、多くの天然ゴムのエステート(大農園)がイギリス人によって経営された。しかし、独立後には合成ゴムの登場で価格の低迷する天然ゴムから、世界的に需要が高まっているパーム油への転換が進められた。したがって、マレーシアの割合で判断できる。

センター試験における統計学習の重要性を物語る設問である。標準的。

問3 9 正解は④

縦軸の「農業人口 1 人当たりの農業生産額」は労働生産性を、横軸の「農地 1 ha 当たりの農業生産額」は土地生産性を示す指標である。

オランダは④。国土が狭小なオランダでは、チューリップなどの花卉を代表とする園芸農業や、干拓地ポルダーを利用した酪農など、土地生産性の高い農業に特化している。

アメリカ合衆国は①。適地適作による大規模な企業的農業を行い、土地生産性は低い、労働生産性は極めて高い。

マレーシアは③。自給的な稲作農業とプランテーション農業が盛んだが、いずれも多くの労働力を集約的に投下して行う農業であり、労働生産性が極めて低い。

イギリスは②。16 世紀の「囲い込み運動」以降、農家ごとの経営規模は大きくなり、土地生産性は比較的低い。この問題では消去法で判断できる。

労働生産性と土地生産性を組み合わせた統計の問題は頻出であるが、理解の不十分な受験生も多かったようである。

問4 10 正解は⑤

Kはク。五大湖周辺の酪農地帯→春小麦地帯→太平洋岸酪農地帯と並ぶ。

Lはカ。トウモロコシ地帯（コーンベルト）→グレートプレーンズのフィードロット（肉牛肥育場）やセンターピボット灌漑による冬小麦地帯→カリフォルニア州の地中海式農業地帯と並ぶ。

Mはキ。トウモロコシ地帯（コーンベルト）→綿花地帯（コットンベルト）→メキシコ湾岸亜熱帯作物地帯と並ぶ。

出題形式は工夫されているが、内容的にはアメリカ合衆国の農業地域区分に関する頻出の基本問題。

問5 11 正解は③

タイは③。タイは農業国である。特に米の輸出においては 2011 年まで世界一であった（農業政策の影響で 2012 年に 3 位に転落した）。また、これら 4 か国中では人口規模の小さい（約 6,700 万人）の発展途上国であり、国内市場は小さい。よって食料の輸出額は大きい、輸入額は小さい。

中国は②。農業生産は盛んで一定の輸出も行うが、人口が多い上に経済成長によって国内需要が著しく拡大しており、輸入額が輸出額を大きく上回っている。

日本は④。輸入額が大きい一方、農業は衰退しており輸出競争力がない。

ドイツは①。輸入額も大きい、EU 共同市場に向けた農産物輸出も盛んである。

①と②の判断はやや迷うところであるが、タイを判定するのは容易である。

問6 12 正解は③

- ③ 誤り。農産物市場の対外開放は、国際競争力に乏しい小規模な国内農家の経営を直撃する。そのため、日本政府は営農の大規模化による農業経営の合理化・基盤強化を推進しようとしている。したがって「営農の大規模化を抑制する政策」が不適當。
- ① 正しい。穀物メジャーは、流通の独占と情報力によって、食料供給体系（フードシステム）における支配的な地位に立ち、主要穀物の備蓄動向や価格決定に大きな影響力を持っている。
- ② 正しい。オーストラリアは、イギリスの EC（現 EU）加盟（1973 年）に伴い、アジア重視に転換した。
- ④ 正しい。ヨーロッパの共通農業政策は対外的には保護貿易政策であり、自由な市場経済を妨げているという批判を受けて、余剰農産物に対する輸出補助金が撤廃された。誤文が日本に関する内容であるだけに、なかば常識的に判断できる問題であった。

第3問 都市と村落

問1 13 正解は①

ハンブルクは①。ドイツのハンブルクは、エルベ川の三角江（エスチュアリー）に立地する。三角江は広大な後背地をもつ交通上の要地として都市が発達しやすい。

カイロは③。エジプトのカイロは、ナイル川の円弧状三角州上に発達した。

ベネチア（ヴェネツィア）は②。イタリアのベネチアは、アドリア海の一部が砂州で切り取られた潟湖（ラグーン）に形成された「水の都」である。

ベルゲンは④。ノルウェーのベルゲンは氷食地形のフィヨルドに位置する港湾都市である。フィヨルドの深く細長い入り江は天然の良港となる。

地形環境の理解とあわせて、地誌的な知識を必要とする設問である。扱われた地名がセンター試験としてはやや細かい。

問2 14 正解は③

適當でないものは③。ニュージーランドの首都ウェリントン（20 万人）は北島の南端に位置するが、人口第 1 位都市は北島北部のオークランド（151 万人）である。かつてオークランドに置かれた首都がウェリントンに遷されたのは、南島を含めた均衡のとれた国土の発展を図るためである（人口は 2012 年の概数、郊外含む）。

- ① スペインの首都マドリード（320 万人）は、人口第 2 位のバルセロナの約 2 倍の人口を有する（人口は 2011 年の概数、市域人口）。
- ② タイの首都バンコク（830 万人）および④メキシコの首都メキシコシティ（2,000 万人）は、いずれも人口第 2 位の都市を大きく引き離して人口が集中する首位都市（プライ

メートシティ)として知られる(人口は2010年の概数,郊外含む)。

知識の有無を直接問う本問のような出題形式はセンター試験では珍しい。やや難。

問3 15 正解は⑥

Aはウ。都市を囲む環状の街路のところどころに円形のラウンドアバウト式交差点がみられる。これはスムーズな自動車交通を目的とする構造で特にイギリスで普及した。また、都市内部の街路は一見不規則に見えるが、等間隔に枝分かれしており、各住戸と幹線道路を効率的に結ぶための工夫がみられる。

Bはイ。イスラーム世界に多くみられる、外敵からの防御を目的とした迷路状街路の特徴が明瞭である。

Cはア。かつて都市を取り巻いていた囲郭(城壁)の跡に沿って環状道路が建設されている。

迷路状の特徴ではAとB、囲郭都市の特徴ではAとCが紛らわしく、受験生を苦しめた難問であった。

問4 16 正解は③

③はエッフェル塔(パリ)。1889年のパリ万国博覧会にあわせて建設された。

①はエンパイア・ステート・ビル(ニューヨーク)。「国際金融拠点」のウォール街を含むマンハッタン区の摩天楼を代表する高層ビルである。

②は東方明珠塔(シャンハイ)。「近年世界都市として急成長」から中国の大都市を想起する。

④は文化科学宮殿(ワルシャワ)。「冷戦期」に政治的影響を及ぼした「近隣国」とは旧ソ連のことである。ソ連の最高指導者スターリンがポーランドに寄贈した建物である。

観光ガイド的な地誌情報の知識を求められている。しかし、これらの建物をすべて知らなくても総合的に判断できる。

問5 17 正解は③

③ 誤り。地産地消が推進されたとはいえ、基本的に日本農業は衰退傾向にあり、農業従事者の高齢化も影響して、耕作放棄地は拡大している。

① 正しい。祭りなどの伝統文化や青年団などの社会組織を引き継ぐ世代が減っている。

② 正しい。民間企業の農業参入にはさまざまな障壁も存在したが、規制緩和が進められている。

④ 正しい。特にTPP(環太平洋経済連携協定)の交渉参加に反対する立場からは、農業のもつ多面的機能が強く主張されるようになっている。

日本社会の現状についての基本的理解があれば、誤文の選択に迷うところは少ない。

問6 18 正解は①

北陸地方は①。北陸は中部地方に含まれ、名古屋圏との親和性が高いものの、交通の利便性を考えると、近畿圏に近接する福井・石川は大阪圏への移動が盛んである。そのため、名古屋圏・大阪圏の割合が比較的高い①が該当する。

中国地方は③。地理的に近接する大阪圏への移動する割合が高いことから判断できる。

②と④は統計の差異が小さいので判定できなくても構わないだろう。名古屋圏の割合がやや高い②が同じ中部地方の甲信越，④が東北である。

都道府県の位置関係がわかっていればごく易しい問題である。

第4問 南アメリカ地誌

問1 19 正解は①

Aはア。ペルー西側の沿岸部（コスタ）には、沖合を流れる寒流（ペルー海流）の影響で乾燥気候が分布する（海岸砂漠）。大気が冷やされて上昇気流が生じず雲ができない。

Bはイ。ペルー中央の山岳部（シエラ）には、アンデス山脈が走り、高山気候が分布する。低緯度の割には涼しい気候となっている。

Cはウ。ペルー東側のアマゾン川流域（セルバ）は、密林の広がる熱帯地域である。

アの海岸砂漠は頻出事項である。短い移動距離であるため「細かい問題」と感じた受験生もいるだろうが、南アメリカの自然環境を大まかに理解していれば難しくはない。

問2 20 正解は③

③ 誤り。Gのブラジル高原は安定陸塊の楕状地である。南アメリカ大陸における古期造山帯の分布は、ごくわずかに過ぎない。

① 正しい。Eのオリノコ川流域には、リャノと呼ばれるサバナ気候の熱帯草原が分布している。

② 正しい。Fのエクアドル付近のアンデス山脈には、5,000～6,000 m級の火山が分布する。

④ 正しい。Hのチリ南部には氷食地形のフィヨルドが発達している。

第1問でもよく問われる大地形の区分は極めて重要である。標準的。

問3 21 正解は①

Mは①。ブラジル高原の熱帯疎林カンポ＝セラードは、日本の政府開発援助（ODA）による大規模開発の後、アメリカ合衆国の穀物メジャーによって大豆の栽培技術が導入され、灌漑設備の整備などによって世界的な大豆産地に変貌した。

Kは②。コロンビアではバナナ・コーヒーなど、主にアメリカ合衆国向け輸出作物を生産するプランテーション農業が行われている。

Lは③。ボリビア周辺の山岳地帯では、やせ地でも栽培が可能なジャガイモ（アンデス原産）の栽培が盛んである。さらに標高の高い地域ではリヤマなどを放牧する。

Nは④。アルゼンチンの草原地帯パンパでは、大土地所有制度に基づく大農園エスタンシアでの企業的牧畜が盛んである。

選択肢をよく読んで、「ブラジル→コーヒー→②」といった短絡的ミスをなくしたい。

問4 22 正解は②

Pはカ。Pはアマゾン川流域の河港都市マナオス。天然ゴムはアマゾン原産である。空港建設、自由貿易地域の指定によって外資の導入が図られた。

Qはク。Qはリオデジャネイロから首都が遷されたブラジリア。内陸部の開発を進めるために、計画的に建設された政治都市である。上空からみると飛行機型の市街地をもつ。

Rはキ。Rは工業都市ベロオリゾンテ。近くにはイタビラなど多くの鉄山などが分布している。ワシントン D.C. に似た放射直交路型の街路形態をもつことでも知られる。

Rはやや頻度の低い都市であり、正答率を引き下げた可能性がある。

問5 23 正解は③

MERCOSUR(南米南部共同市場)は③。MERCOSURは、アルゼンチン・ウルグアイ・パラグアイ・ブラジル・ベネズエラによる関税同盟である。なかでも、内陸国やアルゼンチンは、欧米やアジア（日本・中国など）といった主要貿易国から遠く、輸送の面で不利であるため、域内貿易の割合が高くなる。よって、これらの国が高位となっている③に該当する。

アメリカ合衆国は④。地理的に近接する北部諸国での割合が高い。特にコロンビアやベネズエラは、アメリカ合衆国に原油などの資源を輸出している。

日本は②。地理的に遠く全体的に割合が低い。日本とEPA/FTA（経済連携協定/自由貿易協定）を締結したペルーやチリでやや高い。

EUは①。旧宗主国のスペインやポルトガルがEC(現EU)に加盟した1980年代以降、ヨーロッパとのつながりは強まっている。EUとのFTAも積極的に結んでいる。

問題文にもヒントがあるが、上で述べたような「近接性」からのアプローチだけでも十分に処理が可能である。やや難。

問6 24 正解は③

- ③ 正しい。ムラートはヨーロッパ系（白人）とアフリカ系（黒人）の混血を指す。植民地時代に先住民を駆逐したヨーロッパ系住民は、農園労働力としてアフリカから黒人奴隷を導入した。
- ① 誤り。温帯気候が分布するアルゼンチン・ウルグアイ両国には、スペインやイタリアからの移民が集住した。
- ② 誤り。ポルトガル語はブラジルの公用語である。他の中南米諸国の多くはスペイン語を公用語としている。
- ④ 誤り。中南米諸国の大部分では、スペインなどの宣教師が持ち込んだキリスト教（カトリック）が信仰されている。

ラテンアメリカの民族に関する問題は頻出であり、本問は標準的な内容である。

第5問 現代世界の諸課題

問1 25 正解は①

フィリピンは④。4か国中、国民1人当たりの経済レベルが最低で、栄養状態も十分とはいえず、いずれの指標においても最低位となっている。

デンマークは③。北ヨーロッパ諸国は健康保険を含む社会保障制度が充実しており、医療費に占める公的支出の割合が高い。また、先進国として医療機関も充実している。

アメリカ合衆国は②。人口1,000人当たりの病床数では③のデンマークと並ぶが、経済的自由を重視する政治風潮の下で、長い間、義務的な公的健康保険制度は整備されてこなかった。そのため、医療費に占める公的支出の割合が低い。なお、アメリカ合衆国においては自由診療が基本で、個人は民間の保険会社と契約する。貧困層は保険料を支払えず、医療費負担による破産といった例も多かった。そのため、近年「オバマケア」と呼ばれる医療保険制度改革が行われているが、反対も根強く今後も曲折が予想される。

アラブ首長国連邦は残った①である。原油輸出による潤沢な国家財政から、医療費に占める公的支出の割合は高くなっている。

「アメリカ合衆国の医療費に占める公的支出の割合」については、2014年度の第5問問5でも出題されている。過去問による経験の有無が、難易を左右する出題であった。

問2 26 正解は③

北部アフリカはイ。工業化や資源輸出、出稼ぎ労働者の送金等によって比較的経済レベルが高く、出生率・死亡率ともに低下傾向が続いている。

中部アフリカはア。農業依存の産業構造から脱却できず、経済レベルが低いままで

あり、出生率・死亡率ともに高位で推移している。

南部アフリカはウ。南アフリカ共和国を中心とするこの地域では、工業化や資源輸出等による経済水準の向上と、それに伴う出生率と死亡率の低下傾向は北部と似ている。しかし、1990年代後半以降には HIV（ヒト免疫不全ウイルス）の蔓延により、死亡率が急上昇した。

図 1 中の人口増加指数を参考にすれば、中部アフリカの判別は容易なので、イとウの判別が決め手になる。やや難しい。

問 3 27 28 正解は②—④（順不同）

- ② 誤り。都市国家であるシンガポールは、他の東南アジア諸都市に比べて都市インフラが整備されている（国土全体にコンピューターネットワークを構築するインテリジェント＝アイランド構想も進められている）。また、治安の安定、良好な生活環境、英語の通用などの条件も整っている。このため、多国籍企業の地域統括会社（地域統括本部）が集中し、世界の主要銀行も進出して国際金融センターを形成している。
- ④ 誤り。インナーシティ問題とは、大都市の都心周辺部で住環境が悪化し、富裕層が郊外に流出して夜間人口が減少すると、コミュニティの崩壊と税収不足によって地域が荒廃する現象のことである。空洞化した都心部には低所得者・高齢者・移民が集住し、建物の老朽化や治安・衛生の悪化が進む。したがって「低所得者層の市外への流出」が不適當である。
- ① 正しい。シェンチェン（深圳）は中国の華南に位置する。経済特区に指定され、輸出指向型の工業化が急速に進んだ。
- ③ 正しい。社会資本とは、公共性が高く、生活や産業の基盤となる道路・港湾などの施設をいう。
- ⑤ 正しい。パリでは、北アフリカの旧フランス領を中心とした国々からの移民が多い。その多くはイスラム教徒であるが、文化の違いや経済格差などから既存の社会との軋轢を生んでいる。
- ⑥ 正しい。マニラはフィリピンの首都である。農村部の余剰人口が流入し、スラムを形成している。

選択肢は多いが、落ち着いて文章内容を読み取りたい。②の判定は易、④の判定は標準レベルである。

問 4 29 正解は②

アフリカはカ。サハラ砂漠南縁のサヘルなどでは、人口爆発と貧困を背景に家畜頭数が急増し、過放牧に陥っている。このため植生が失われ、砂漠化の主な要因となっている。

北・中央アメリカはク。アメリカ合衆国のグレートプレーンズでは、地下水を利用したセンターピボット方式などの灌漑農業が大規模に行われており、過剰な灌漑で起こる土壌の塩性化や、収穫後の耕地で起こる表土流出に悩まされている。

南アメリカはキ。アマゾン盆地では、熱帯林セルバへの火入れや伐採を伴う牧場開発・道路建設などによって、森林破壊が進行している。

見慣れない資料を利用しながら、環境問題の基本的な理解を問う良問である。やや難。

問 5 30 正解は④

二酸化硫黄は、化石燃料の燃焼に伴って排出される酸性雨の原因物質の一種である。他の硫黄酸化物と合わせて SO_x (ソックス) という。そのため、二酸化硫黄排出量は、基礎素材型の製造業や火力発電などを中心とした経済活動の大きさに左右される。本問は消去法的に判定する方がよいだろう。

- ①は中国。近年の経済成長に伴って、急速に排出量を増加させている。また、環境対策も不十分である。
- ②はアメリカ合衆国。世界最大の経済力を持つが、産業構造の高度化や環境対策に伴って排出量は低下傾向にある。
- ③はオーストラリア。これらの4か国中人口が最も少なく(約2,300万人)、経済活動の規模は小さい。
- ④はイギリス。産業革命発祥の国であり、古くから重工業が発展した。かつて「黒郷(ブラックカントリー)」と呼ばれたバーミンガムに象徴されるように、大気汚染も深刻であったが、1950年代にロンドンで発生したスモッグ(二酸化硫黄が霧とともに滞留)が多く犠牲者を出したことから、法律による排出規制を中心とする環境対策が進行した。

上記のような細かい知識がなくても、選択肢の絞り込みは難しくないだろう。

第6問 地域調査(北海道富良野市周辺)

問 1 31 正解は②

- ② 正しい。Q 駅と R 駅間の路線の東方に富良野岳が見える。視界をさえぎる地形や構造物はない。
- ① 誤り。P 駅と Q 駅の間には、ほとんど建造物はみられない。

- ③ 誤り。駅前の市街地や町役場は、R 駅を過ぎたあとの中富良野駅周辺にみられる。
- ④ 誤り。R 駅と S 駅間の路線の周辺には田の記号が広がり、果樹園の記号はみられない。

地形図読図に関する知識もほとんど不要の、ごく易しい問題である。

問2 32 正解は①

- ①の「上部に太陽電池が付いた時計」は、積雪には対応していない。他の地域にもみられる施設である。
- ②の「縦型の信号機」は、信号機の上部に雪を付着させない工夫である。
- ③の「道路の境界を示す標識」は、積雪時の自動車運転の安全のために設置されている。
- ④の「ホース取り付け部の位置が高い消火栓」は、積雪時にも利用できるように考えられている。

常識的に判断できる易問である。

問3 33 正解は②

- ② 誤り。鉄道は1921年時点で敷設しているもの以外にはつくられていない。新しい空知川の流路の兩岸に平行してみられるのは、堤防の地図記号である。
- ① 正しい。富良野駅西側の拡大した市街地には、市役所・裁判所・警察署などの施設がみえる。
- ③ 正しい。北の峰町から御料にかけて直線的な新道が建設され、家屋が並んでいる。また、その西方の斜面には「富良野スキー場」や「ゴルフ場」がみられる。
- ④ 正しい。北三号道路の周辺は整然と区画されており、田の記号が広がっている。かつて湿地の中を蛇行していた河川が、排水用の水路として整備されている。

ごく基本的な新旧地形図の比較問題。誤文の内容が明確である。

問4 34 正解は②

- ② 誤り。「大規模な灌漑施設を必要としない」ことは正しいが、ジャガイモ農家の分布は盆地を含むほぼ全域に広がっている。
- ① 正しい。耐寒性の品種改良によって、北海道の稲作は発達した。米農家の分布は図の南西部の盆地に集中している。
- ③ 正しい。乳牛の図を見ると、戸数を示す黒丸は少なく、図中央部の緩斜面などに散在する。
- ④ 正しい。いずれの図でも、南東部が空白地域になっている。

図の判読だけで対応できる、特別の事前学習や知識を必要としない易問である。

問5 35 正解は③

サは落葉広葉樹。常緑広葉樹林は、温帯でも年中湿潤で暖かい地方にみられる。葉は凍結に弱いので、冬の寒さが厳しい冷帯では、冬に葉を落とす落葉広葉樹が分布する。

シは上昇。自給率とは、国内消費量に対する国内生産量の割合である。表1の数値から木材自給率を計算すると、2002年は約19% ($16,920 \div 89,195 = 0.189\dots$)、2012年は約29% ($20,318 \div 70,769 = 0.287\dots$)となる。近年、新興国での木材需要増加、資源保護のための丸太輸出規制などの影響で木材の国際価格が上昇する一方、長引く不景気で日本国内の木材需要は低迷している。そのため、2002年以降、日本の木材自給率は上昇傾向にある。

与えられた資料を確認しないまま「日本の林業は衰退傾向→自給率は低下しているはず」といった短絡的な判定に陥らなければ易しい問題である。

問6 36 正解は③

③ 誤り。2000年度の夏季(7～9月)の観光客数の合計は約90万人、冬季(1～3月)は約70万人となり、2倍以上とはならない。

① 正しい。冬季のピークである1月と比較すると、1970年度には約10万人であったのが、1980年度には25万人以上に増加している。

② 正しい。1980年度まではピークを形成していなかった7月に、1990年度には1月に次ぐピークが現れている。

④ 正しい。5月や9～11月などに注目すると、2010年度は他の年度を上回っている。

問題文の注にある夏季・冬季の定義や選択肢の内容をしっかりと読めば、誤文の判定は難しくない。落としたい問題である。